



公益社団法人 石川県作業療法士会 ニュース

第114号 2020年3月18日 発行

進藤監事が医療功労賞受賞

公益社団法人 石川県作業療法士会 会長 東川 哲朗(金沢脳神経外科病院)



前列左が進藤監事

当会の進藤浩美監事が1月15日、医療功労賞(読売新聞社主催)を受賞されANA全日空ホテルにて授賞式が開催された。

本賞は多年に渡り地域医療に貢献された方に授与されるものである。進藤監事におかれては単に能登地区の作業療法というより、石川県の作業療法を黎明期より力強く、正しく牽引頂いてきている、その功績が認められたものと大変うれしく思っている。

隠された秘話としてご主人よりこの受賞を予想された言葉を頂いていたとお聞きしている。

先生とご主人に改めて受賞のお祝いを述べたい。

石川県災害リハビリテーション支援関連団体協議会(JRAT石川)の取り組み

公益社団法人 石川県作業療法士会 会長 東川 哲朗(金沢脳神経外科病院)

当会は石川県災害リハビリテーション支援関連団体協議会(JRAT石川)を構成する団体として活動を開始している。

活動の中で、「JIMTEF医療関連職種団体協議会」の研修会に参加する機会を得た。その中で「避難所運営ゲーム:HUG」というゲームに参加した。テーブルゲームで避難所運営を模擬体験するものだが、次から次に押し寄せる避難者の整理、飛び込む情報、沸き起こる避難者からの要望と大混乱を体験。実際はこの混乱の数倍の規模の事が起こるかと思うと、正直ぞっとする思いであった。

また、この中では普段あまり一緒にいない他職種の方との協同作業も体験。物事を進めなければいけないが、なかなか方向性が定まらない。ベースが同じでない協業者に理解される様運営を進めることは大変難しい事ではあるが、分かり合えるような関係作りが平時の大事と学んだ。

もう一つ学んだ大きな事がある。JIMTEF研修の後、

JRATの全国研修にも参加する機会を得た。一般に災害支援というと直接現場に出向き、被災した方に何らかの援助をすることが大きな使命と考える。当然、そのような役割を担う事も必要である。実はそれとは別に、直接支援する人を後方で支える機能が大変重要であると学んだ。不幸にして被災地となった場合は、当事者の中で初動する計画を立てなければならない。被災地に人員を派遣する場合は、派遣先の調整もさることながら、この地で派遣者の募集から派遣にまつわる諸手続き、派遣者の準備援助、派遣中の活動支援など多くの後方支援が大変重要で、その任こそ県士会が担う大きな役割と学んだ。

南海トラフ巨大地震、関東での直下型地震など、今後起きるだろうと言われる災害に加え、年々増加する異常気象からの災害、いつ、どこで起きるかわからない。平時の今こそ、その時に備え準備をしなければいけない。誰かがではなく、私であり、あなたかもしれない。できることを一緒にやりませんか。

臨床実習指導者講習会(石川県)について ～新たに臨床実習指導者99名を養成～

担当理事 米田 貢(金沢大学)

臨床実習指導者講習会が令和2年2月8日(土)から9日(日)に専門学校金沢リハビリテーションアカデミーで開催され、新たに99名の臨床実習指導者が養成された。これまで士会ニュースの紙面において幾度も取り上げてきた話題であるが、次年度以降に参加される方のために少し具体的な内容をお伝えし、報告としたい。

講習会は講義と演習からなる。内容は厚生労働省が指定したカリキュラムで構成されており、全国の会場で受講しても同じである。演習は7つのテーマで構成されており、受講者は7-8人のグループに分かれて司会、記録、発表の役割を分担しながら演習課題についてディスカッションしていく。どの演習も活発な議論がされた中で、診療参加型の臨床実習と45時間の実習時間の用い方に関する質問や感想が多かった。指定規則ガイドラインは、令和2年4月1日より施行されることになるが、現行の臨床実習においても適用していくよう求められている(閣議決定：内閣衆質196第412号、平成30年7月6日)。現在の講習内容において、診療参加型の臨床実習では、「見学」「模倣」「実施」という3段階で学生に指導することが示されている。方法論としては例示が示されたところであり、これから試行錯誤が必要である。多くの参加者から共通して聞かれたことは「指導者自身がしっかりと知識を養い、日頃の臨床内容を的確に説明できるように研鑽していく必要がある」ということであっ

た。先に診療参加型実習が導入されている医師や看護師の状況を見ると、コアカリキュラムが策定され、実習内容についても明確にされており、理解の参考になるだろう。また、作業療法士のガイドラインでは「実習前後の評価」についても注目したい。医学科生においては参加者実技試験であるOSCE(オスキー、Objective Structured Clinical Examination)と、知識を問われるCBT(Computer Based Testing)が実施されており、この両方に合格しなければ臨床実習ができないと定められている。5年後にガイドラインの見直しがされることになっており、同様の方向に進むのかもしれない。

さて、来年度は9月に開催を予定している。経験年数が5年目から受講資格が認められ、まだ指導者資格を得ていない会員数は、おおよそ500名程度と把握している。今後は理学療法士会と県内養成校で構成する教育協議会で検討を進め、多くの会員が講習会を受講できるように整備していく。情報については県士会ニュースや県士会webで周知していく。特に申し込み締め切りは開催日の2ヶ月前になっているため、注意いただきたい。

最後に講習会の開催には会場、世話人の協力が必要になる。今回の講習会開催にあたりご尽力いただいた先生方に感謝申し上げます。



講習会の様子

東海北陸ブロック リーダー研修会2018 in 石川 に参加して

令和元年11月30日(土)・12月1日(日)、東海北陸ブロックリーダー養成研修が石川県作業療法士会主催で金沢大学サテライトプラザにて開催された。石川県より参加した4名より所感を述べさせていただく。

谷内香織(やわたメディカルセンター)

研修会は2日間で1日目は他県士会の方と、2日目は同県士会メンバーの方とのグループワークが実施された。その中で実習生を受け入れる上での各施設での工夫や取り組みを知ることや、他県士会でも研修会参加者が少ないことや後輩育成の方法など同じような悩みや課題を抱えているということを知る機会となった。また自己の県士会の課題に対して、他県士会のメンバーが解決策を考え提案するといった時間が設けられ、他県士会の方から課題解決についてのヒントを得ることができた。今回の研修会を通して講師の方からは情熱を、他参加者からは今後課題に取り組む際の勇気や原動力をいただく貴重な機会となった。

白山真由子(恵寿総合病院)

現在までの石川県士会を作ってくださった先輩OT達のすごさを知った。県士会の問題点を出し合う中で、当県士会は幅広い活動を網羅しており、それが無駄なく、統制がとれ、かつ発展的だということを知り、質の高さと、それを培ってきた先人OT達の顔が浮かび、尊敬の念以外なかった。その質の高い県士会活動を維持し、さらに発展していかななくてはならないと感じた。また、一日目の今寺忠造氏の講義での「研修は行動を起こすためのもの」「相手を変える前に自分が変わる」という思いを忘れず、自己研鑽と行動を起こして行きたい。

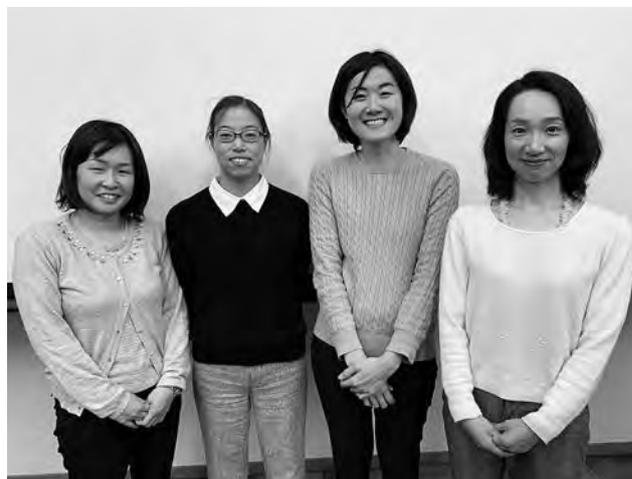
上田陽子(金沢赤十字病院)

7県の作業療法士が35名集まり、1日目は各県から1名ずつ代表して5つのグループを作り、リーダーに必要な心構えや臨床実習に対する指導方法を教わり、2日目は各県の課題に対して担当の県がアドバイスを行うというものであった。集まった人の課題や悩みには共通点があり、普段の思いを打ち明けられたことや他の施設の方の工夫を教わったことも参考に

なった。ある県の受講者5人は少年のように仲が良く、県士会を自分たちが盛り上げて行きたいという思いがあることが印象的だった。世話人の方が、受講者を飽きさせないように工夫されていて、研修会ながら充実した時間となった。

岡本聡美(金沢医科大学病院)

1日目の他県士会とのグループワークや懇親会では、同年代の作業療法士の方々と各病院や県士会の特徴や悩み、自慢などをざっくばらんに話すことができた。2日目は石川県士会の代表の方々と石川県士会の課題とその解決策について話し合った。2日間の研修を通して、石川県士会には課題はあるものの、日々の臨床や学術的研鑽に関する県士会員へのフォローアップ体制がとても充実していると感じた。石川県士会の大きな強みであり、今後県士会員の多くの皆さんにこの強みを広めていければと思った。また準備期間から県士会の先輩方とたくさん話ができて、とても充実した研修であった。



(左より)白山さん、谷内さん、岡本さん、上田さん

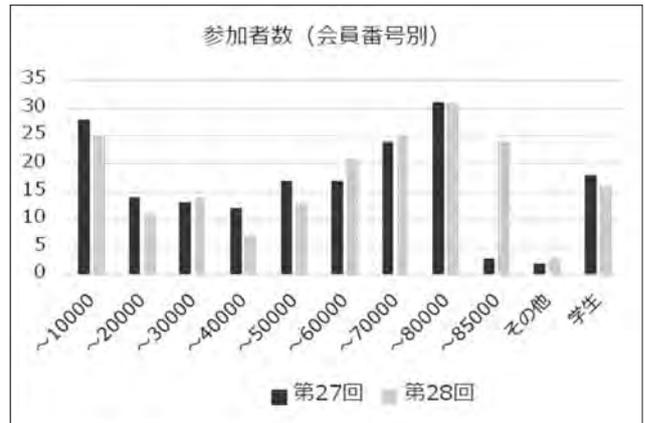
「そだ県学会へ行こう。」

第29回石川県作業療法学会 学会長 高多 真裕美(金沢脳神経外科病院)

第29回石川県作業療法学会まで約3ヶ月となった。本学会はランチョンセミナーや県士会・SIG活動報告など新しい試みも多いため、当院スタッフのほか金沢西支部スタッフの協力も得て準備を進めている。会場選定にあたり過去2回の参加者数を調べたところ、第27回は179名、第28回は190名であった(学生含)。会員番号10000から50000台の参加が少ないことがわかる。結婚、育児などのライフイベントとの調整が難しい時期であると考え、学会参加は学術的知見を得るだけでなく、仲間と繋がることで、翌日からの臨床や生活に良い影響を与えられる。今年は家族の協力や子連れで参加できるサテライト会場を利用して、ぜひ学会に参加していただきたい。

参加登録は4月1日(水)より開始予定である。

*学会情報は公式Web、SNSを随時更新中。



高度・専門利用人材養成支援事業研修会 ～地域包括ケア時代！在宅で求められる作業療法士の専門性～

森田 満美子(訪問看護・リハビリステーション リハス)

令和元年12月14日(土)、金沢大学サテライトプラザにて「地域包括ケア時代！在宅で求められる作業療法士の専門性」と題し、医療法人おもと会宇田薫氏に講演していただいた。『誤った選択肢から誤った生活へ』『選択肢が足りないから制限された生活へ』という言葉が印象的だった。新たな選択肢の発見は永遠の課題と感じる。益々在院日数が短くなることが予想され、病院から地域へという流れは止められない。より一層切れ目のない連携が必要となる。連携とは『互いに連絡をとり協力して物事を行うこと。連絡≠連携』連絡は一方通行であり、連携は双方の矢印が相互する。伝えただけではなく、伝わったのかが大事であると学んだ。県士会をあげて在宅の研修会を開催して頂けたことは、とてもありがたい。

私たちに求められることは、『作業療法士の専門性

を追求し必要なサービスに繋ぎ、結果を残せること』ではないか。今後も自己研鑽をし、社会に必要とされる専門職を目指していきたい。



北陸三県合同生活行為向上マネジメント事例検討会報告

MTDLP推進委員 吉田 翔(城北病院)

北陸三県合同生活行為向上マネジメント事例検討会が令和元年12月21日(土)専門学校金沢リハビリテーションアカデミーで開催された。三県から約50名が参加し、日頃関わることの少ない富山県や福井県の作業療法士とも意見交換する機会となった。8事例の報告があり、3つの

会場に分かれて事例検討を行った。医療の急性期や回復期だけでなく、通所リハビリテーション等の介護保険分野からの報告もあり、様々な病期・分野での作業療法の実践を学ぶことができた。



「達人OTセミナー」に参加して

山梨 珠美(金沢西病院)

令和元年12月8日(日)に金沢流通会館で達人OTセミナーが開催された。テーマは、「内部障害の基礎から実践」であり、広島都市学園大学健康科学部リハビリテーション学科作業療法専攻の高島千敬氏にご講演をいただいた。

講義は、COPDや心不全など呼吸器・循環器疾患に対する病態の捉え方と評価・介入を中心にお話をいただいた。内部障害の障害像として、①外見からは判断できない②呼吸器・循環器疾患では息切れを伴う③廃用症候群を伴うことが多い④抑うつなどの心理的問題を呈することが多いと説明され、対象者の活動と参加の拡大を図るために作業療法士へのニーズは高まっている。特にCOPDの介入で、作業療法士の活動指導だけでなく呼吸

困難感を誘発させる体験を行い、自分で考える機会を設けることが重要であると説明されたことが印象に残っている。高齢化の進展により内部障害は増加しており重複障害への対応が多くなっている中、内部障害に対する知識の重要性を改めて感じた。



各支部支援活動

能登支部

小川 正人(恵寿総合病院)

令和2年2月1日(土)能登小牧台で能登支部研修会を開催し43名の参加があった。村井千賀氏を講師に迎えICFの基本的な考え、コードの持つ意味、活用方法について学んだ。コードに実行状況の点数を記載し評価ツールとしての活用や事例を介してアセスメン

トとしての活用など生活行為にアプローチするOTにとって有効なツールとなる事を実感した。2月2日(日)の事例検討会は25名が参加、6事例に活発な質疑応答があり深く検討できたと思う。

加賀支部

西村 幸盛(片山津温泉・丘の上病院)

今年度の事例検討会は、延べ68名の参加と8事例の報告があり、1回あたり約23名の参加と2.7事例の報告となった。また、MTDLP事例検討会も延べ68名の参加であったが、報告数が5事例となり、1回あたりでは約1.7事例となった。加賀支部全体の会員数から

みると参加者数・報告件数のポテンシャルはまだまだ高いものと思われる。次年度も自分の為、さらには対象となる方の為にこの場を有効に活用していただきたい。

金沢西支部

長原 美穂(石川県リハビリテーションセンター)

第3回MTDLP事例検討会を令和2年2月5日(水)に岡部病院にてファシリテーターに村井千賀氏、西谷すずな氏をお迎えし開催した。参加者は、8施設18名とやや寂しい人数であったが、精神科病院3施設から10名の参加をいただいた。身体障害分野からの発表であったが、事例は、知的障害と糖尿病、うつと糖尿病と2事例ともに複合的な疾病のある事例で再発予

防・疾病管理のため活動量・栄養への支援が必要であった。身体活動量を生活活動でわかりやすく提示する作業療法士らしい支援方法を学ぶことができた。精神科分野では、薬剤性糖尿病や知的障害を併せ持つ方もおり、共通する知識を得られたのではないかと考える。次年度も様々な分野からの参加を期待したい。

金沢東支部

堀江 翔(金沢大学附属病院)

今年度は例年通りの一般事例、MTDLP事例検討会ともに3回ずつ、また金沢市の健康づくりフェアへのブース参加を行った。事例検討会については各支部共通の課題であるが、参加者・参加施設の偏りがある。来年度は各3回ずつの事例検討会を実施予定で、一般

の事例検討会では認定OTによるミニレクチャーを予定している。より参加者の臨床に繋がる検討会にしていきたいと思っているので、多施設多分野からの参加を期待している。

連載
第3回
情報発信!

拡げよう！移動支援の輪！

運転と作業療法に係る委員会 合歓垣 洸一(芳珠記念病院)

当委員会は、運転のみに関わらず、移動手段全般について考え、対象者の生活を支援できる作業療法士の育成も目的としている。今年度開催した勉強会では事例検討を中心にを行い、その中でも、運転免許返納後の支援についても意見交換することができた。

本人が納得して免許証を返納することが望ましいが、必ずしもそうとは限らない。

作業療法士は公共交通機関など代替手段を提案し、実際の移動手段の獲得までを支援する必要がある。また、自治体が設けている自主返納支援の情報や友

人の助けを借りるといったインフォーマルなサービスも考える必要があり、支援には個別性が高い。

今後、委員会では悩み相談コーナーや他職種も含めた有志による知識共有の場を設け、自動車学校と医療機関で連携をとった事例について一緒に検討会を行い、互いの専門性を理解しあえる取り組みを行う予定である。会員の皆様には積極的に参画して頂き、各地域ならではの取り組みなど情報交換を行いながら発信していきたい。

2020年度内の生涯教育手帳移行申請のお願い

教育部 担当理事 桂 靖典(木島病院)

2020年4月1日より新生涯教育システムの運用が開始される。そこで2020年度内に行って頂きたい行動について列挙させて頂く。

移行申請は2020年度内に1度きりしか行えないため、ご注意を頂きたい。教育部は①の作業をサポートする為、3月22日(日)の午前中に石川県リハビリテーションセンターにて生涯教育手帳一斉整理作業を開催する。この機会を是非とも利用して頂きたい。

新生涯教育システムが開始されると生涯教育手帳は全て電子化され、他団体・SIG等のポイント申請は会員各自が行わなければならないが、各研修や学会、風船バレー大会などで付与される基礎ポイントは県士会の管理担当者が、臨床実習指導者のポイントは各養成校が協会のデータベースへ登録する為、会員の皆様にもメリットを感じて頂けると思う。2020年度内に会員全員の手帳移行終了に向け教育部も尽力する為、会員の皆様にも協力を頂けると幸いです。

会員各自が2020年度内に行うこと

- ①2019年度末までに取得した基礎ポイントを全て受講記録へ貼付、押印する。
- ②以下の準備を行う。
 - ・インターネットが使える機器(スマホ、PC、タブレットなど)
 - ・生涯教育受講記録
 - ・生涯教育受講記録の写真等(スマホの写真やPDFデータなど)
 - ・会員ポータルサイトのIDとパスワード
- ③日本作業療法士協会のホームページより会員ポータルサイトへログインする。
- ④手帳移行作業を行う。(基礎研修修了・未修了者などで行う作業は異なる)

◆◆◆令和元年度 公益社団法人石川県作業療法士会 第5回理事連絡会 議事録◆◆◆

1. 日時・場所：令和2年 1月 15日(水) 19時～22時40分 西泉事務所
2. 出席：東川、寺田、安本、麦井、大西、明福、渡邊、寺尾、高多、米田、桂、白山、中森、永井、種本、合歓垣(理事16名) 長原、西村、小川(支部長3名) 山本詩、山下(書記2名)
3. 議 事
 - 第1号議案 協会の重点事項に関する県士会での取り組み状況について
協会の重点事項に関する当会での取り組み状況について会長より確認があった。
 - 第2号議案 令和2年度予算と事業計画について
今後の事業計画について①各部の特性(技術系、学術系、公益性)②部名称の改称検討③石川県リハビリテーションセンター主催研修会の位置づけについての説明と、今後の事業計画への反映について会長より提案があった。
 - 第3号議案 各部・委員会・各支部事業経過報告
 - 【教育部】OT協会主催生涯教育制度推進担当者会議の報告があった。ポイントについて令和2年度からは90分以上の研修は2ポイント付与となる。承認
 - 【発達障害支援部】OT協会における特別支援教育研修プログラムの応用編を県士会で開催することが予定されていることから、今後の動向についての情報収集依頼があった。
 - 【認知症対応委員会】当士会が監修し金沢市が発行する『いつでもどこでも脳活プログラム』パンフレット完成の報告があった。
 - 【災害対策委員会】1月18日開催予定のJIMTEF災害医療研修アドバンスコースに吉田氏(芳珠記念病院)と東氏(石川県リハビリテーションセンター)が参加予定との報告があった。
 - 【PT・OT・ST連絡会】2月16日開催予定の実践報告会の説明と、同日開催される介護ロボットフォーラム事業についての案内があった。
 - 【財務部】令和2年度からの勉強会・情報交換会の参加費は資料代実費とする。承認
 - 【表彰委員会】令和元年度医療功労賞(読売新聞社)に進藤浩美監事が選出された。
 - 【執行部】県士会会員とOT協会会員の統一について、非OT協会会員の対応について審議がなされた。継続審議
 - 【その他】①福祉用具相談支援システムにおいて今後OT協会の生活行為工夫モデル事業への参画が予定されていることから当士会におけるアドバイザー増員の提案があった。
②会場の定例借用に関しては定期的なお礼を検討する。

◆◆◆令和元年度 公益社団法人石川県作業療法士会 第6回理事連絡会 議事録◆◆◆

1. 日時・場所：令和2年 2月 13日(木) 19時～21時15分 西泉事務所
2. 出席：東川、寺田、安本、麦井、村田、大西、渡邊、高多、河野、米田、桂、白山、中森、永井、種本、合歓垣(理事16名) 堀江、長原、西村、小川(支部長4名) 山本恭、山下(書記2名)
3. 審議事項
 - 1) 令和2年度事業計画について 社会福祉部は生活行為工夫モデル事業への参加を検討する。承認
事業部は令和2年度接遇研修会を5月16日(土) 14時～15時に開催する。承認
 - 2) 令和2年度石川県作業療法学会について 学会参加登録は県士会WEBから行う。承認
 - 3) 新生涯教育システムの運用について 各研修会への参加登録期限を検討。継続審議
 - 4) 組織・事業の見直しについて 友の会など外部団体から県士会へ講師紹介依頼があった場合は紹介された講師と外部団体とで内容・公文書発行等を取り決める。承認
理事によって県士会の業務内容に偏りがみられるので均一化できるよう統合や縮小を検討する。継続審議
 - 5) 個人賛助会員について 現在県士会会員で非OT協会会員は当面個人賛助会員の扱いとし今後協会入会等の案内を配布する。個人賛助会費は規定(入会金及び会費規定第3条2(2))に則って正会員と同額とする。承認
4. 報告事項
県士会での今後の重点項目を・地域包括ケアシステムへの対応・臨床実習指導者講習会への対応・JRAT(災害対策)・OT啓発(・OT教育-----技術面、認定・専門作業療法士育成、リーダー育成)とする旨会長より報告があった。

インフォメーション

令和2年度 会費納入についてのお知らせ

- ・ **継続** 石川県作業療法士会年会費：8,000円
 - ・ **新規** 4月以降に県士会へ新規入会：13,000円（入会費5,000円＋年会費8,000円）
- 【納入期間】令和2年4月1日～令和2年4月末日（期間厳守でお願いいたします）

【納入先】

- 北國銀行 野田支店 普通 260902
公益社団法人 石川県作業療法士会 会長 東川哲朗
- 郵便振替 00720-7-22369 公益社団法人 石川県作業療法士会
ネットバンキングの場合：ゆうちょ銀行 当座預金 支店079 口座番号0022369

職場変更・自宅住所変更がある場合は届出もお忘れなく！！

県士会ホームページ（<http://www.ishikawa-ot.com>）より『会員の皆様へ』（スマホの場合は右上のメニュー）→『入会・異動・退会手続き方法』へ

お問い合わせ先 (公社)石川県作業療法士会 事務局
jimu-n@ishikawa-ot.com FAX：076-259-0681

令和2年度 公益社団法人 石川県作業療法士協会 総会(予定) ～表彰式典・新人歓迎会～

日程：5月16日(土)
場所：KKRホテル金沢
〒920-0912 石川県金沢市大手町2-32



KINJO UNIVERSITY

社会福祉学部
社会福祉学科
子ども福祉学科

医療健康学部
理学療法学科
作業療法学科

看護学部
看護学科

大学院
総合リハビリテーション学研究所
総合リハビリテーション学専攻（修士課程）

金城大学 医療健康学部 理学療法学科/作業療法学科
全国でもトップクラスの国家試験合格率と100%の就職率！
幅広い知識と実践力を持つ医療・福祉のリーダーを養成し、地域の健康を支えています。

金城大学 入試広報部 金城大学ホームページにもお知らせ

0120-276-150 E-mail: nyushi@kinjo.ac.jp
TEL: 076-276-1175 FAX: 076-276-4319

金城大学 1300-020
〒920-8511 石川県白山市志保町1200番地 (松任キャンパス) 〒920-0962 石川県白山市志保1丁目250番地 (本館キャンパス)



作業療法士 募集

パーキンソン病専門の
リハビリ施設

【我がまに生きる】という施設ビジョンのもと、利用者様の望みである“病気だから仕方ない”ではなく“病気でも出来る”ようにやりたい事に挑戦できること、ここで働くセラピストの想いや技術が“しっかりと活きる”未来ある場所になるように考えています。

勤務地 ●PDハウス小坂
石川県金沢市小坂町北123-3
●PDハウス白山
石川県白山市北沢町西2-17

年収 456万円
(月給28万＋賞与120万円)

2023年実現に向けて働き方改革

公休数 120日 残業 0時間 有給取得 100%

株式会社サンウェルズ

PDハウスの働き方を公開中！
施設見学・個別スマホ説明会
随時開催中！！

0120-905-166 365日受付中！
10:00～19:00

株式会社サンウェルズ 検索

賛助会員名簿 (順不同)

A会員

社会医療法人財団董仙会
学校法人 金城学園

B会員

学校法人センチュリー・カレッジ
社会福祉法人徳充会青山彩光苑
特定医療法人社団勝木会
医療法人社団和宏会

C会員

粟津神経サナトリウム
石川県済生会金沢病院
石川県リハビリテーションセンター
医療法人社団浅ノ川浅ノ川総合病院
医療法人社団浅ノ川金沢脳神経外科病院
医療法人社団浅ノ川桜ヶ丘病院
医療法人社団浅ノ川千木病院
医療法人社団映寿会
医療法人社団さくら会森田病院
医療法人社団慈豊会
医療法人社団丹生会
医療法人社団生生会えんやま健康クリニック
医療法人社団千木福久会
医療法人社団扇寿会
医療法人社団長久会
医療法人社団同朋会
医療法人社団中田内科病院
医療法人社団洋和会
医療法人社団輪生会
医療法人積仁会

金沢医科大学病院
独立行政法人地域医療機能推進機構金沢病院
金沢赤十字病院
公立穴水総合病院
公立宇出津総合病院
社会福祉法人篤豊会
公益社団法人石川勤労者医療協会城北クリニック
公益社団法人石川勤労者医療協会城北病院
珠洲市総合病院
芳珠記念病院
医療法人社団博洋会
医療法人社団持木会柳田温泉病院
医療法人社団博友会
医療法人社団光仁会
宇野酸素株式会社
金沢義肢製作所
株式会社トータルシステム
株式会社トミキライフケア
エア・ウォーター・リンク株式会社北陸支店
株式会社ヤマシタ
セントラルメディカル株式会社
株式会社メディパック
株式会社サンウェルズ
医療法人社団橘会 整形外科米澤病院
学校法人阿弥陀寺教育学園

D会員

医療法人社団あいずみクリニック
有限会社さわやか金沢
東洋羽毛北信越販売株式会社

Web会員手続きQRコード



QRコードの説明

Web会員手続きがお済みでない会員は、QRコードから県士会webにアクセスして登録して下さい。
登録いただいたメールアドレスに研修会の情報などをML配信します。



会員数

会員数 837名 認定作業療法士 28名 専門作業療法士 5名

編集後記

今回、JRAT石川の取り組みを紹介した。編集人も日本DMATの隊員として活動している。新型コロナウイルス対応のため、編集人にも2月7日に厚労省より要請がきた。大型クルーズ船への派遣では他県DMAT隊員が活動中に感染し、知らずにJRを使用、周囲に感染危険を高めた。もし自分であったらどうであったか。仲間の事件に胸が痛んだ。大規模災害訓練も度々受けたが、自身を守る訓練は少ない。記事の中でも、多方面から支援する必要性が語られているが、同時に自身への支援の必要性和難しさを痛感した。

公益社団法人石川県作業療法士会ニュース 年4回発行

編集担当：米田貢、明福真理子、白山武志、酒野直樹、田中菜美、杉浦有子、藤田隆司、川口朋子、

寺井利夫、太田哲生、岩田望、網谷郁美、西谷早紀、山梨珠美、南朱音、上野玲子、福岡翔平

発行所：公益社団法人 石川県作業療法士会

〒921-8043 石川県金沢市西泉3丁目28-1 東和第3ビル201 Tel 076-259-0678

発行人：東川哲朗 印刷：ヨシダ印刷株式会社